第 188 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)

A. 日時: 2007年12月26日(水) 13:30~17:30

B. 場所:電気学会 第1·2会議室

C. 出席者(順不同, 敬称略):

委員長: 穂積(愛工大)

委員: 伊藤(日本ガイシ), 山崎(日立電線 渡辺委員代理), 高橋(ビスキャス), 小林(日

立), 武藤(三菱電機), 中坊(日新電機), 清水(東芝), 本間(電中研)

幹 事:田中康(武蔵工大),内田(中部電力)

幹事補: 岡下(昭和電線), 高橋俊(電中研)

以上計13名

D. 提出資料

番号なし	第 187 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)	幹事団
188-1	誘電・絶縁材料技術委員会 委員名簿	幹事団
188-2	誘電絶縁材料技術委員会開催メモ	穂積委員長
188-3	電気学会 屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と長期性能	
	調査専門委員会 第6回議事録	本間委員
188-4	電気学会 屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と長期性能	
	調査専門委員会 第7回議事録(案)	本間委員
188-5	「絶縁診断に基づく電力機器のアセットマネジメント調査専門委員	会」
	設置趣意書(案)	穂積委員長
188-6	調査専門委員会フォローシート(2007年度計画)	幹事団
188-7	平成 19 年度 誘電・材料研究会,技術委員会,その他行事予定(4 次	案) 幹事団
188-8	平成 20 年度 誘電・材料研究会,技術委員会,その他行事予定(0 次	案) 幹事団
188-9	誘電・絶縁材料研究会(案)	幹事団
188-10	第 38 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催報告	幹事団
188-11	第 38 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム収支報告(中間)	岡下幹事補
188-12	2008 International Symposium on Electrical Insulating Materials	3
	開催提案書(案)	幹事団
188-13	ISEIM2008 Session Invited Speaker 推薦者一覧 ISEIM	I2008 事務局
188-14	2008年度犬石賞,矢作賞投票結果	内田幹事
188-15	電気学会論文発表賞 A(若手発表賞)受賞候補者(案)	幹事団

E.議事内容

1. 委員長挨拶

穂積委員長より、挨拶があり、シンポジウムでの企業委員の協力への謝意および研究会

等への協力要請があった。

2. 議事録の確認, 承認

高橋俊幹事補より第 187 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録(案)の報告があり、承認された。

3. 名簿確認

資料 188-1 が確認された。渡辺委員の所属および本間委員と高橋俊幹事補の FAX 番号を 修正することとし、他に修正事項等あれば、岡下幹事補まで各自連絡することとした。

4. 第74回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録

資料 188-2 に基づき、穂積委員長より報告があった。当技術委員会関連では、「有機薄膜及び複合膜のナノ界面物性とデバイス・センサ応用」調査専門委員会の設立が承認されたこと、シンポジウムの活動資金が承認されたことが報告された。

5. 屋外用ポリマー・・・調査専門委員会

同調査専門委員会の第6回議事録,第7回議事録(案)として,それぞれ資料188-3,188-4 が本間委員より報告された。

- 6. 「絶縁診断に基づく電力機器のアセットマネジメント調査専門委員会」設置趣意書(案) 資料 188-5 に基づき、穂積委員長より説明があり、以下の議論があった。
 - ・材料劣化、電気絶縁の面をもっと強調してはいかがか。
 - ・フォーマット(各項のタイトル、会員・非会員区分など)や委員公募様式を整える。

以上の議論をふまえ、委員長をはじめとする関係者にて改訂し、2/8 開催予定の A 部門研究調査運営委員会に付議することとした。

7. 調査専門委員会フォローシート

資料 188-6 に基づき、田中康幹事より説明があり、以下の事項が確認された。

- ・「ナノコンポジット」の後継委員会は田中祀委員に穂積委員長より確認することとした。
- ・「屋外用ポリマー」の後継委員会は B 部門と合同で立ち上げる方向で検討中と本間委員より報告があった。A 部門研究調査運営委員会など関係各所と連系を取りながら, B 部門と合同開催する方向で検討することとした。
- ・「イオンマイグレーション」の技術報告は単行本としてまもなく発刊される予定であり、 フォーラムを検討中の旨、穂積委員長より報告された。
- ・「電力機器絶縁診断の経済性評価」もフォーラムを検討中の旨, 穂積委員長より報告された。
- ・設置期間が終了して技術報告が未発刊の調査専門委員会については, 穂積委員長を中 心として幹事団にてフォローすることとした。
- ・空間電荷関連の調査専門委員会は 2008 年度後半から開始すべく,関係各所と調整している旨, 穂積委員長より報告があった。
- ・生体関連の調査専門委員会は立ち上げの可否を含めて検討中である旨, 穂積委員長より報告があった。

- 8. 平成 19 年度 誘電・絶縁材料研究会,技術委員会,その他行事予定(4 次案) 資料 188-7 に基づき、田中康幹事より説明があり、以下の事項が確認された。
 - ・全国大会シンポジウム, 高分子と放射線は 3/21AM となった。
 - ・2/19 の研究会は電気学会会議室にて開催予定。
- 9. 平成 20 年度 誘電・絶縁材料研究会,技術委員会,その他行事予定(0 次案) 資料 188-8 に基づき、田中康幹事より説明があり、以下の事項が確認された。
 - ・ポリマーがいしの研究会は10月に開催を予定中と本間委員より報告があった。
 - ・秋田での研究会は、ISEIM2008 との整合をとるため、12 月開催の方向で検討すること とした。
 - ・H21/3 の東京での研究会,テーマとして帯電の代わりに「誘電・絶縁一般」を入れる こととした。

10. 誘電·絶縁材料研究会(案)

資料 188-9 に基づき、田中康幹事より説明があり、以下の事項が確認された。

- ・「カナダ国立研究所での留学報告」については、英文誌原稿も依頼することとした。
- ・アセットマネジメント関係、空間電荷分布計測関係については、国内外の研究レビュー的なものとすることとした。これは、これから立ち上げる調査専門委員会の設置趣意書の「背景および内外機関における調査活動」を充実させ、技術報告書の充実につなげるためである。今後も、新規立ち上げ調査専門委員会については、同様の取り纏めを行っていきたい旨、委員長から意見があった。
- ・来年度の国際会議として ISEIM, CMD がある。できるだけ参加した博士課程の学生 に報告して頂きたいとの意見があった。
- 11. 第38回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催報告,収支報告(中間)

資料 188-10 に基づき高橋俊幹事補より、資料 188-11 について岡下幹事補より、それぞれ説明があり、以下の議論があった。

- ・SSセッションは学生にとっても企業にとってもプラスになったのではないか。
- ・企画セッション,一般セッションでも活発な議論が展開された。
- ・MVPセッションでは、参加大学数および学生数を増加させることが重要。
- ・若手セミナーの開催も復活させて頂きたい。企業委員に各社から幹事の推薦可否、参加者の有無及び参加可能頻度(毎年、隔年、困難?)を幹事団から確認し、開催する方向で検討することとした。
- ・収支報告については、中間段階で全会一致で承認された。また、最終的な収支決算は 幹事団に一任することとした。

12. ISEIM2008 関連

資料 188-12 および 188-13 に基づき、高橋俊幹事補より説明があり、以下の議論があった。

・MVP セッションは開催する方向で ISEIM2008 組織委員会に諮ることとした。

- ・SS セッションも開催する方向とし、海外企業の参加も受け付ける方向で組織委員会に 諮ることとした。
- ・Session Invited Speaker については、ISEIM2008 幹事団で協議し、事務局より各候補の方に依頼することとした。なお、Dr. Morshuis については、メインの Invited Speaker として検討することとした。

13. 表彰関係

資料 188-14 に基づき、内田幹事より説明があり、以下のように全会一致で可決した。

- ・2008年度犬石賞:原先生(もと九州大)
- ・2008年度矢作賞:渋谷先生(芝浦工大)

また、資料 188-15 に基づき、高橋俊幹事補より説明があり、第 1 候補及び第 2 候補を推薦することとした。

F. 次回委員会

次回は研究会開催と絡め、3月14日午前中に開催することとした。

以上